

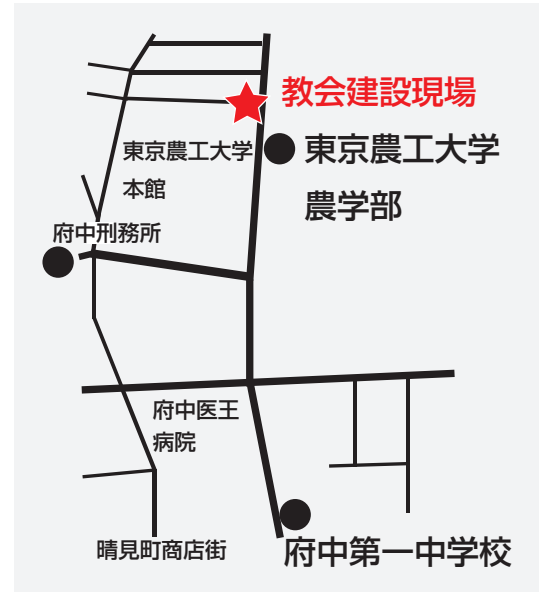
晴見町に統一協会系“分派”が教会建設中

府中市は住民の不安にこたえた対応を

文鮮明を信奉する「霊連世協会」施設 住民や大学教員からも心配の声

府中市晴見町の一角、東京農工大学の正門の近くに、統一協会の創始者“文鮮明”を今も信奉する元信者が建設した宗教団体の協会建設が進められています。靈感商法など、さまざまな反社会的活動で多くの被害を生んできたカルト集団の統一協会。「近くに統一協会に関連する施設ができるらしい」と住民から不安の声が出始め、東京農工大学教職員組合は「学生が反社会的な活動に巻き込まれることのないように」注意喚起する声明を発表しました。

周囲から不安の声が高まる中で、施設建設工事は23年2月以降停止した状況が続いています。



カルト化の本質は不変 1月29日付 東京民報より 「キリスト新聞」編集長 松谷信司さんの話

統一協会の「分派」は国内外に多数存在し、「霊連世協会」もその一つと考えられます。またその名称は、統一協会内ですでに「霊界と肉界を連結して実質的な統一を完成し、天理と天道によって摂理を経緯するようになるという意味」として説明されている用語でもあり、この理念・精神を掲げて独立した宗教団体のようです。

会長の女性は、10年前に統一協会から「異端者として除名された」と主張していますが、創設者の文鮮明氏を今も信奉していることは明らかであり、教団本体には批判的な態度を取りながらも、その信仰はおおむね統一原理に基づいており、カルト化した信仰の本質は何も変わっていないと言えるでしょう。

2月4日におこなわれた
建設中止を訴える市民パレード



日本共産党 府中市議予定候補
からさわ 地平

○1989年長野県生まれ。東京農工学卒。17年、21年の都議選に立候補。趣味はエレクトーン演奏。新町在住。

統一協会被害から市民・若者を守れ

住民や学生が靈感商法などの被害に巻き込まれないか、不安の声が多く寄せられています。

日本共産党は府中市に対して、統一協会および関連団体と一切の関係を持たないと宣言し、市民や学生に旧統一協会の被害が広がらないように対応することを求めます。



府中市への申し入れ (9月20日)

